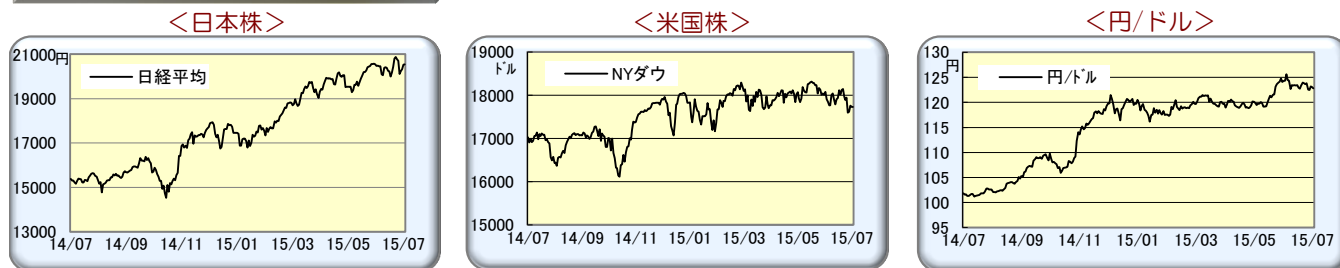


1. 日米株式と円/ドルの推移



(注)チャートは過去1年

	単位	2014/12/31 (前年末)	2015/6/30 (前月末)	2015/7/3 (前週末)	過去3年高値		過去3年安値	
					水準	日付	水準	日付
日経平均	円	17,450.77	20,235.73	20,539.79	20,952.71	2015/6/24	8,328.02	2012/7/25
NYダウ	ドル	17,823.07	17,619.51	17,730.11	18,351.36	2015/5/19	12,471.49	2012/11/16
円/ドル	円	119.78	122.50	122.79	125.86	2015/6/5	77.13	2012/9/13

過去3年高値・安値はザラ場ベース / 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

2. 日本株市場 先週の振り返り

～日経平均は週初に今年最大の下げ幅を記録した後は反発に転じる～

先週の日本株市場は、週間ベースで日経平均が▲166.36円(▲0.80%)、TOPIXが▲14.94ポイント(▲0.90%)となり、日経平均は週初に今年最大の下げ幅(前日比▲596.2円)を記録した後は反発に転じました。業種別(東証33業種)にみると、その他金融業、空運業、建設業など9業種が上昇し、鉄鋼、非鉄金属、鉱業など24業種が下落しました。週明け29日の日本株市場は、先々週末にギリシャへの支援協議が決裂し、ギリシャの債務不履行への警戒感の高まりから一気に円高ドル安が進む中、今年最大の下げ幅を記録しました。しかし、その後週末にかけて、①日銀短観で大企業製造業業況判断が市場予想を上回ったこと、②米国経済指標の良好な結果などから米国株市場が堅調に推移したこと、③円安ドル高が進んだことなどから、日経平均は20,500円台まで戻して引けました。

3. 今週の主な予定

日程	曜日	国・地域	項目		前回
7月6日	Mon	日本	景気先行CI指数	5月	106.4
			景気一致指数	5月	111.0
7月7日	Tue	米国	ISM非製造業景況指数(総合)	6月	55.7
			貿易収支	5月	-409億ドル
7月8日	Wed	日本	国際収支:経常収支	5月	1兆3264億円
			貿易収支(国際収支ベース)	5月	-1462億円
			景気ウォッチャー調査現状	6月	53.3
			景気ウォッチャー調査先行き	6月	54.5
7月9日	Thu	日本	機械受注(前月比)	5月	3.8%
		中国	CPI(消費者物価指数)(前年比)	6月	1.2%
7月10日	Fri	日本	国内企業物価指数(前年比)	6月	-2.1%
		米国	イエレンFRB(米連邦準備理事会)議長の講演		

決算発表予定 他	国	決算発表
	日本	決算発表 : 7/7 セブン&アイ・ホールディングス、ローソン 7/8 イオン、良品計画 7/9 ファーストリテイリング 7/10 ビックカメラ、久光製薬
	米国	決算発表 : 7/8 アルコア

※ 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

4. 日本株市場 今週の見通し

～ギリシャの国民投票で緊縮反対が多数を占める結果となったことを受けて軟調な展開～

今週の日本株市場は、5日に行われたギリシャの国民投票において、国際債権団が求める財政緊縮策に対し反対が多数を占める結果となったことを受けてギリシャのユーロ離脱リスクが高まる中、投資家のリスク回避姿勢が強まるとみて、軟調な展開が続くと予想します。なお、ギリシャ問題に関しては、7日のユーロ圏首脳会議を含め、本日以降開催される首脳会議を受けて決定される対応策に注目しています。

その他注目材料としては、先週末に発表された中国政府による株価対策の効果、日本では8日の景気ウォッチャー調査、米国では6日のISM非製造業景況指数や10日のイエレンFRB(米連邦準備理事会)議長の講演が挙げられます。